

# 笑楽幸

土佐清水市立清水小学校  
校長室便り 令和2年5月22日

## これからの生活で・・・

学校が再開されて2週間経ちます。子どもたちは元気に登校してくれています。

さて、非常事態宣言が出され、不要不急の外出制限、『ステイホーム』を合い言葉に1ヶ月以上にわたり我慢の生活が続きました。みんなが心を一つにして頑張ってきたからでしょうか高知県においては20日以上感染が確認されていません。

非常事態宣言も解除され、徐々にではありますが、日常の生活が戻りつつあるように感じます。

しかし全てが収まり、安心安全な生活が再開されたわけではありません。全国的には、まだまだ毎日感染者が確認されています。医療関係者からは第2波の感染拡大への懸念もだされております。

引き続き学校では、感染拡大防止に向けて、できるだけ3密を避ける取り組みを継続するとともに検温、マスクの着用推進、手洗い、うがいを続けていきたいと思っております。

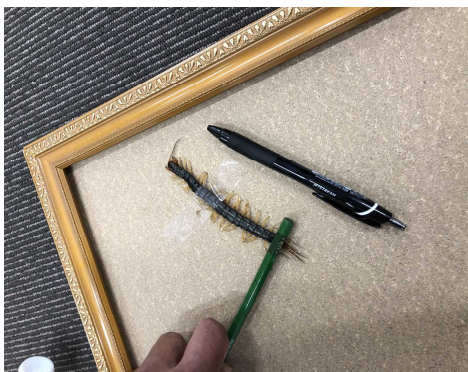
ご家庭においても、できることを継続してほしいと思っております。

感染防止に向けては意識が高まり、取り組みを進めているところですが、気温も高くなってきている今、気をつけることは多くあります。

熱中症予防対策はその一つです。小学校にはエアコンも有り、熱中症予防対策はある意味取りやすかったのですが、新型コロナウイルス感染防止の面からすると、こまめに水分補給をとりながら、これまで以上の換気にも気をつけ取り組んでいきたいと思っております。

もう一つ気をつけてほしいことがあります。そ

れは暖かくなり、いろんなき虫や生き物の活動が活発になります。写真は、見えにくいかもしれませんが、ムカデです。



ムカデです。ボールペンの長さと同じくらい大きいムカデです。

さてどこにいたでしょうか？子どもが見つつけてくれましたが、児童の下駄箱の前にいました。も

し子どもたちの上履きの中において、知らないうちにはいてしまい、かまれてしまったらと思うと…怖い気がします。

今回は、かまれることはなかったのですが、これからはくつをはく前には、中を確認することも必要になるかも知れませんね。

また校外では、毛虫やダニ、ヘビなども気をつける必要があります。すぐに触ったりすることなく安全に気をつけて生活してほしいものです。

## なかなか難しい…でもきつと…

どこの学校に行っても必ず話題になるのがあいさつです。お子さんの家でのあいさつはどのようなか？100点満点で付けるとすると何点でしょうか。

たかがあいさつ、されどあいさつでずいぶんと難しいものです。あいさつには心を届けると言う意味があります。分かっているのにできにくいのもあいさつです。

毎朝検温をしていますが、元気にあいさつが返ってくる児童もいれば、元気がないぞ…と感じる児童もいます。けして大きな声で、元気よく…とは言えませんが、あいさつすれば、あいさつが返ってくるようにはしたいですね。できていると思っても案外できていないことの方が多いです。

さて、昨日は児童会の役員が職員会に出席して、「今年のあいさつ運動は、名前を呼んであいさつしたいので、顔写真を撮らせてください。」と決意表明してくれました。

児童会の役員が、これまでのあいさつ運動ではいけない、新しい取り組みが必要だと思つての主体的な活動です。

この思いには、ぜひ答えてあげたいし、ご家庭でも応援とともにあいさつについて今一度話題にさせていただければと思っております。

少し理屈っぽい話になりますが、先日読んでいた本の中に『湿った薪を乾かすには、こちらが燃えて乾かすことだ』（札幌学院大学特任教授 松井光一）という言葉がありました。

〈あいさつしても返ってこない。心を込めて話しても通じないと感じることもあるが、湿った薪を乾かすにはこちらが太陽になって燃えて乾かさなければならない。最初は結構苦しいけど湿った薪が乾いてくれば、一緒になって燃え上がることができる。〉と書かれていました。

先日の児童会の子どもたちからはある意味、松井教授の言葉にあった熱を感じ、頼もしく思えました。

私自身は、薪が乾くのを待っていたか、薪は必ず乾くと信じていることができていたのか。そもそも太陽のように明るく強く優しくこちらが燃えることができていたのかなど反省することは多くあります。

子どもたちの熱がみんなにも伝わり、あいさつの声が響く学校になれば良いなあと思っております。ともに頑張っていきましょう。保護者のみなさんからの声、感想もお待ちしております。

